

# 子育て支援をキーワードに人に優しいまちづくり

マザー・サポート・ネットワーク 代表 飯田佳子

マザー・サポート・ネットワーク(略してママサポ)は、子育てをする母親にはサポートが必要と思っている支援者と、今子育て真っ最中で「サポートが欲しい!」と思っている母親がつながるための拠点として2005年4月に発足したNPOです。発起人は臨床心理士と子育て中のママ達です。代表の飯田佳子さんに子育て支援に寄せる思いをお願いしました。

## 子育ての負担感を抱える母親たち

少子化が深刻になり、“子育て支援”が国の政策の重要課題となってもう何年も経ちました。母親に負担が集中していた子育ても、少しずつではありますが父親や社会が子育てをサポートする形に変容してきています。厚生労働省では、2001年に誕生した子どもの親御さんの子育ての実情を年に1回追跡調査しています。その中に「子どもを育てていて負担に思うことや悩み」という項目があります。子どもの成長と共に負担に感じる項目が変わってくるのですが、就学前のお子さんを育てている時期は「自分の自由な時間が持てない」という項目が第1位をキープしています。特にお子さんの年齢が小さいうちは、このことを負担に思う方の割合が突出しています。今まで自分のために使っていた時間が全く無くなるのが、精神的負担感を増強していることがわかります。また、幼稚園入園以前のお子さんを持つお母さんは「子育てによる身体の疲れが大きい」という項目を選ぶ方も多く、24時間子どもと一緒にいる時期は、身体も心も疲れていることが伺えます。一方、幼稚園入園後からは、「子育てで出費がかさむ」という項目が年々増えていっており、教育費の負担が子どもの年齢が上がると増えていくことがわかります。子どもの成長と共に子育てで負担に感じる内容の内容は変化していくので、子ども手当など

の経済的支援策だけでは乳幼児を育てている母親の負担感を減らすことにはならないと言えるでしょう。

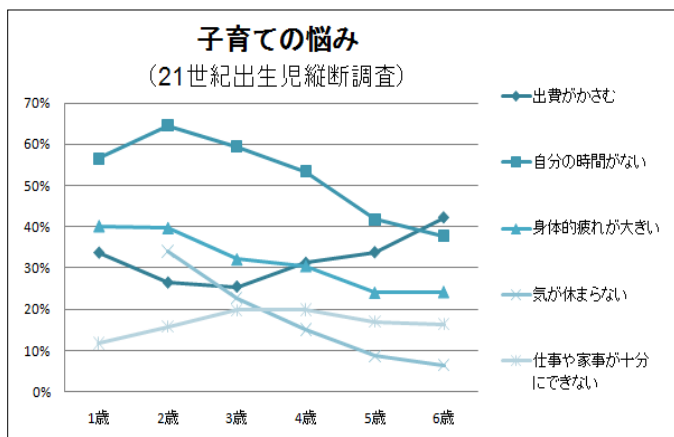
## フレッシュママクラスでの子育て支援

私が子育て支援の現場で出会うお母さんは、皆さん子育てに一生懸命です。子どもにとっていいことは取り入れ、子どものために自分の休養や楽しみを我慢し、



「フレッシュママクラス」での様子

子どもへの関わり方はこれでいいのかと日々葛藤しています。特にお子さんが小さい時ほど不安感が強く、他の子と我が子を比べて「うちの子はみんなとちょっと違うのではないか?」と気をもんでいます。でも、わざわざカウンセリングルームに出向いて相談するほど思い悩んでいる人はごくわずかで、多くの方は日々の忙しさにまぎれて頭をかすめる不安をかき消しています。そんなお母さんが気楽に悩みを話せて、子育てに必要なエッセンスを取り入れていける場が必要と考え、3か月～2歳くらいまでのお子さんとお母さんを対象に、親子で集える場所での子どもの関わり方を体験学習する「フレッシュママクラス」を開催しています。フレッシュママクラスは地域文庫活動をされている方をお願いして週に1日文庫のお部屋(私設図書室)をお借りして開催しています。メインスタッフは保育士で、サブスタッフは子育て支援ボランティアです。以前そこに参加されていたひと組の親子を紹介しながら、フレッシュママクラ



厚生労働省調査「21世紀出生児縦断調査結果」より